

# 平成22年度 静岡大学 職員海外研修報告書

REPORT of ADMINISTRATIVE EXCHANGE TRAINING in fiscal 2010

TRAINEE: TOSHIFUMI UEDA 《Facilities-T》  
NORIHITO HISADA 《Accounting-T》  
NOZOMI SEKO 《Faculty of Education》

Training Period: Tue.12.14~Fri.12.18 in 2010

KYUNGPOOK  
NATIONAL  
UNIVERSITY



YEUNGNAM  
UNIVERSITY



表紙	.....	1
目次	.....	2
< 1 >職員海外研修制度の目的・研修者	.....	3
< 2 >事前事後の打合せ日程	.....	4
< 3 >海外研修 日程表	.....	5
< 4 >タイムスケジュール	.....	6
< 5 >大韓民国の概要	.....	7
< 6 >訪問大学の概要	.....	9
< 7 >データ比較	.....	10
< 8 >学生支援	.....	13
< 9 >交換留学生の聞き取り調査	.....	21
<10>施設整備	.....	23
<11>調達	.....	29
<12>監査・検収体制	.....	32

## あとがき

- ・本研修の在り方
- ・研修者各個人の所感



↑慶北大:本部前にて通訳の学生と静大生と撮影

# <1>職員海外研修制度の目的・研修者

## 研修制度の目的

本学における国際交流の推進、国際社会への貢献等、国際化する社会に対応できる優秀な人材を育成するため、本学の職員を海外の大学に派遣し、諸外国における大学の教育・研究の支援体制、事務組織等について研修させることを目的とする。

## 研修先の選定

大学間協定を結んだ大学の内、韓国大邱の中心大学である2大学へ訪問する。

ヨンナム

嶺南大学校(締結日:平成14年10月10日)は、私立大学、

キョンボク

慶北大学校(締結日:平成20年3月7日)は、国立大学である。

## 研修者

財務施設部	施設チーム	主任	上田 敏史
財務施設部	経理・契約チーム	スタッフ	久田 徳人
教育学部	学務係	係員	世古 望美

## <2>事前事後の打合せ日程

月日	事項	内容等	備考
10/19	海外研修参加者の決定	—	
11/08	第1回参加者打合せ会	研修の意義の確認をし、各自研修希望事項を次回打合せまでに作成することとなる。 研修先は韓国で期間は12月中旬に決定。	国際交流チーム
11/12	研修者間にて打合せ	研修希望事項を持ち寄り、すり合わせを行う。	施設チーム
11/15	第2回参加者打合せ会	研修希望事項の説明をして、市川国際交流課長にチェックしていただいた。 研修先を慶北大と嶺南大に決定。 研修先の嶺南大学生から大学の話を伺う。	国際交流チーム
11/16	第3回参加者打合せ会	研修先の慶北大学生から大学の話を伺う。	センター長室
11/16・17	両大学からの日程承諾	両大学から日程承諾の連絡が送付される。	メール
11/18	研修者にて各種チケットを手配	エアーチケット・電車切符・宿泊先などの予約を行う。	
11/下旬	日程詳細等を各大学受入担当者と打合せ	研修者と受入担当者にて日程詳細・研修事項の取りまとめ方法等を打合せ。(英語・日本語)	メール
11/22	研修者と静大英語担当助教(Shaffer)と懇談	Shaffer先生と英語にて、“日本と比較した海外の大学の特色”について懇談する。	共通教育A棟
11/26	研修事項を両大学へ送付	日本語研修事項を両大学へ送付した。	メール
12/13	出国前の挨拶 学長・局長・部長への挨拶		
12/14～ 18	研修中	嶺南大学校・慶北大学校	
12/20	帰国の報告 学長・局長・部長への挨拶		
12/20	先方へのお礼を送付	各担当者から到着の無事とお礼を送った。	メール等
12/20～	報告書の作成	研修時のメモや写真を整理して参加者で交換し、資料を作成する。	
3/18	拡大事務協議会報告	研修の報告	

# <3>海外研修 日程表

1. 研修期間 平成22年12月14日(火)～平成22年12月18日(土)

2. 研修先 嶺南大学校(ヨンナム) 慶北大学校(キョンホク)

## 3. 研修日程表

月 日	内 容	宿 泊 地
12/14(火)	出 国 成田空港 → 釜山・金海空港(キム) → 東大邱(トンテグ) 14:00[KE716] 16:20 19:00[KTX] 19:47	<東大邱> ジェイスホテル
12/15(水)	嶺南大学校 視察 9:30事務打合せ→会食→施設見学17:00	<東大邱> ジェイスホテル
12/16(木)	慶北大学校 視察 10:00事務打合せ→会食→施設見学→15:00静大学生と会合16:00	<東大邱> ジェイスホテル
12/17(金)	慶州 視察(文化研修) 東大邱(トンテグ) → 慶州(キョンジュ) → 釜山(プサン)	<釜山> 東横イン釜山駅1
12/18(土)	帰 国 釜山・金海空港(キム) → 成田空港 10:50[KE715] 12:45	

# <4>タイムスケジュール

平成22年度静岡大学  
職員海外研修報告書

日	時間	訪問部署・視察場所等
12/14(火)	移動日	
12/15(水)  【嶺南大学】 (ヨンナム)	09:30-10:30	嶺南大学の紹介、質疑応答:国際交流チーム長 他
	10:30-11:10	質疑応答(国際支援について):国際支援チーム長 他
	11:20-12:00	質疑応答(学生支援について):学生支援チーム長 他
	12:00-13:00	昼食:国際交流チーム長、学生支援チーム長、師範大学行政室長 他
	13:20-14:20	質疑応答(師範大学の現状について):師範大学長、師範大学行政室長 他
	14:30-17:00	嶺南大学の施設見学(師範大学、e-learningセンター、食堂、図書館、会館、寮)
12/16(木)  【慶北大学】 (キョンボク)	10:00-12:00	慶北大学の紹介、質疑応答:国際交流チーム副長 他
	12:00-13:00	昼食:国際交流チーム副長、国際交流チーム留学生担当 他
	13:20-15:00	慶北大学の施設見学(図書館、寮、語学堂、教育学部、本部)
	15:00-16:00	質疑応答(韓国での学生生活について):静岡大学留学生(農学部)
12/17(金) 【文化研修】	09:20-17:00	東大邱(トンテグ) → 慶州(石窟庵・仏国寺・慶州国立博物館) → 釜山
12/18(土)	移動日	

## 1.地理・国旗

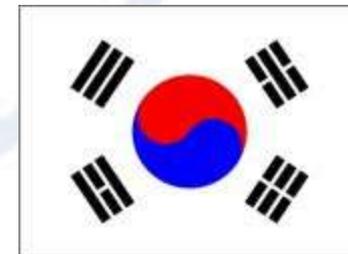
韓国は北緯33-43度、東経124-132度の間にあり、アジア大陸の北東部に位置している。標準時正午線は135度で世界標準時より9時間早く、日本との時差はない。総面積は222,135km<sup>2</sup>で、イギリス、ニュージーランド、ルーマニアとほぼ同じくらいの広さある。

このうち大韓民国が98,480km<sup>2</sup>(45%)で、北韓が122,762km<sup>2</sup>(55%)となっている。山岳地帯は国土の70%を占め北部と東部に密集し、平野は主に西部と南部に広がっており、三方の海には3400ほどの島がある。

(韓国は日本の1/4弱の国土である。日本の山岳地帯は70%。)



【国旗】韓国の国旗の模様は東洋哲学の陰陽原理を象徴しています。中央に、「宇宙最高の原理」を意味する「太極」を円で示しています。青と赤は陰陽、さらに火と木、男と女、動と静などを表し、融合と調和を象徴するものです。



# <5>大韓民国の概要

平成22年度静岡大学  
職員海外研修報告書

## 2.公用語・人口・GDP 等

<総務省統計局「世界の統計2010」抜粋>

日 本 (JAPAN)	
公用語	日本語 (慣例上)
首都	東京都
最大の都市	東京特別区
面積総計	377,914km <sup>2</sup> (60位)
人口総計 (2008年)	127,288,419人 (10位)
人口密度	337人/km <sup>2</sup>
GDP (PPP) (2008年)	4兆3,560億ドル (3位)
1人あたりGDP	34,115ドル
通貨	円 (JPY)
時間帯	UTC +9 (DST: なし)

大韓民国 (KOREA)	
公用語	朝鮮語
首都	ソウル
最大の都市	ソウル
面積総計	98,480km <sup>2</sup> (107位)
人口総計 (2008年)	48,333,000人 (26位)
人口密度	493人/km <sup>2</sup>
GDP (PPP) (2008年)	1兆3,423億ドル (13位)
1人あたりGDP	27,646ドル
通貨	大韓民国Won (KRW)
時間帯	UTC +9 (DST: なし)

# <6>訪問大学の概要

平成22年度静岡大学  
職員海外研修報告書

## 1.沿革・学部数・運営日等

項目	静岡大学	嶺南大学校(ヨンナム)	慶北大学校(キョンボク)
創立	1949年5月31日	1947年9月22日	1946年9月
主要団地	2団地(大谷・城北)	2団地(慶山・大邱)	3団地(山格洞・東仁洞・尚州)
学部数(大学院除く)	6学部	17学部(医学部含む)	15学部(医学部含む)
運営日(学科年度)	4月1日～3月31日	3月1日～2月28日	3月1日～2月28日
運営日(休暇)	春季：3月23～4月2日 夏季：8月5日～9月15日 冬季：12月27日～1月4日	夏季：6月20日～8月28日 冬季：12月19日～2月26日	—————
会計年度	4月1日～3月31日	3月1日～2月28日	国庫：1月1日～12月31日 期成会費：3月1日～2月28日



←嶺南大:国際交流チームとの打ち合わせ風景

### ※期成会費

学生の保護者による大学支援組織(法人格を持たない)の会費であり、国庫と異なり直接大学に入る。

慶北大:国際交流チームの方と撮影→



# <7>データ比較(1)

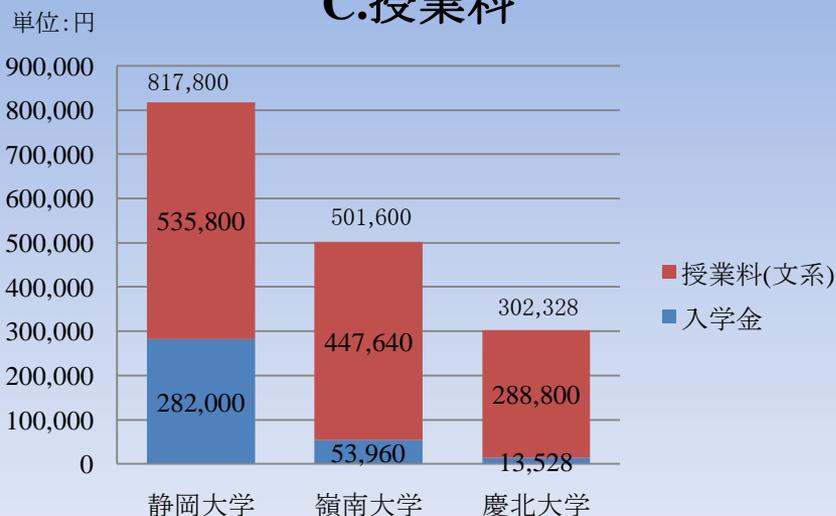
## A.収入



## B.支出



## C.授業料

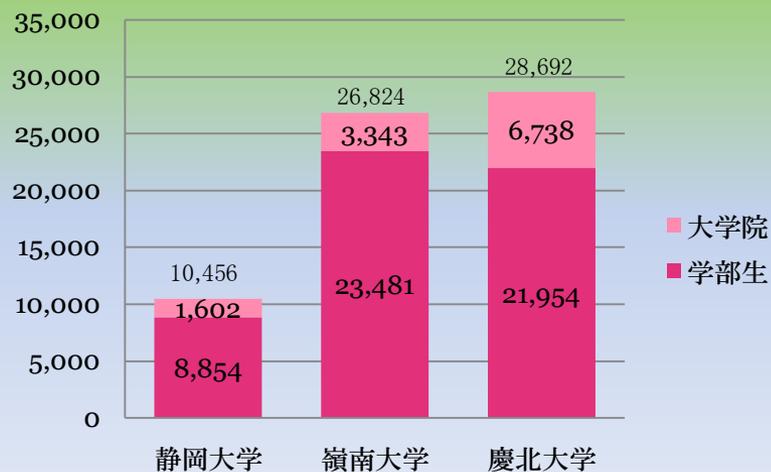


### 【分析と課題】

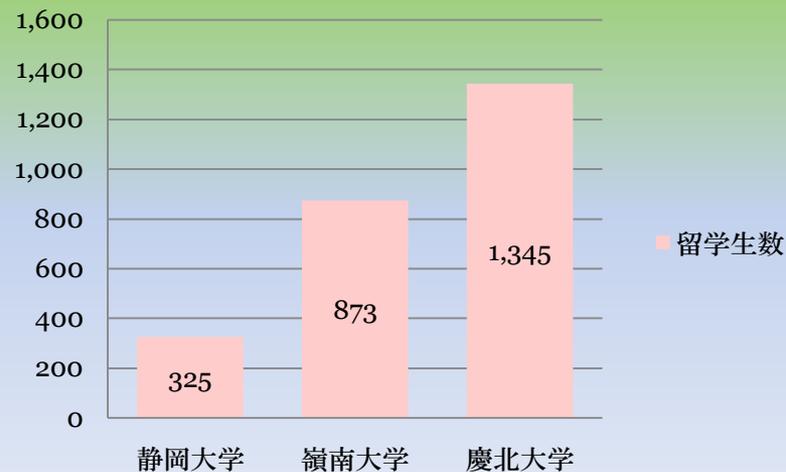
- A.収入:授業料等には期成会費が含まれるためか、割合として過半以上を占めている。
- B.支出:人件費の割合が低い
- C.授業料:入学金の割合が低い

注記: 76円=1,000 Won

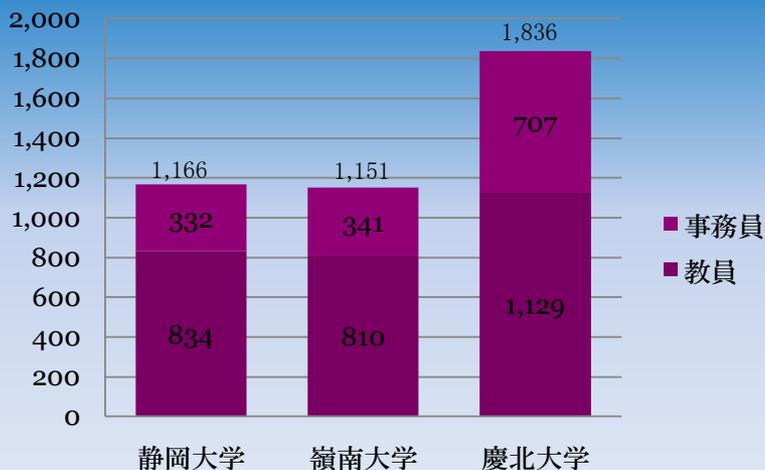
## C. 学生数



## D. 外国人留学生数



## E. 教職員数



### 【分析と課題】

C. 学生数: 嶺南は2.6倍、慶北は2.7倍

D. 留学生数: 嶺南は2.7倍、慶北は4.1倍

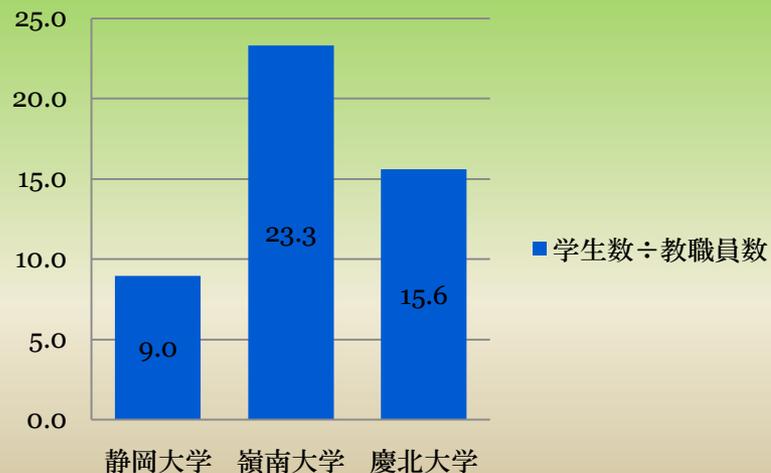
E. 教職員数: 3大学のうち慶北大学だけは事務職員の割合が少し高い

# <7>データ比較(3)

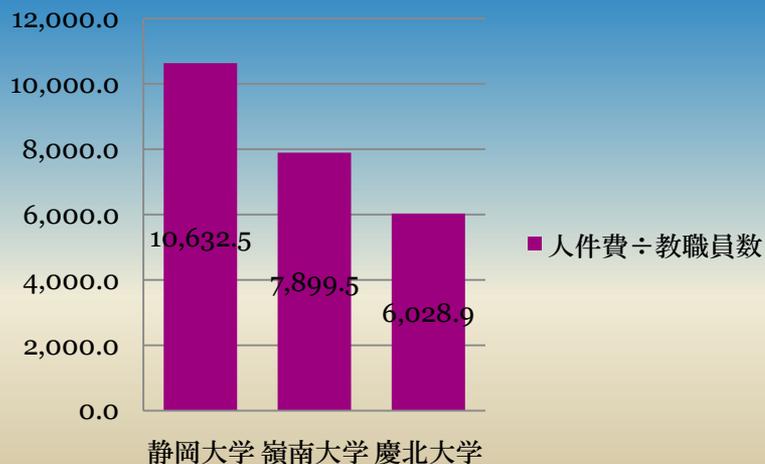
## F.学生一人当たりの費用



## G.教職員一人当たりの学生数



## H.教職員一人当たりの費用



### 【分析と課題】

F.学生当たり費用:両大学とも当大学の約半分

G.教職員当たり学生数:嶺南大学は当大学の2倍以上

H.教職員当たり費用:両大学とも当大学より低い

### 【各グラフの説明】

F:総支出額を総学生数にて按分

G:総学生数を総教職員数にて按分

H:支出の人件費を総教職員数にて按分

# <8> 学生支援

## 1. 学生の要望の把握と対応

<1>学生からの意見・要望の収集方法

<2>学生からの意見・要望への対応について(組織体制、対応方法)

静岡大学	嶺南大学校(ヨンナム)	慶北大学校(キョンボク)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学生生活実態調査」、「オピニオンボックス(意見箱)」、「懇談会」等で学生の意見を聴取し、各種問題の改善を図っている。</li> <li>・2009年には学生生活実態調査を行い、生活環境・アルバイト・学業・学内生活・進路等について、アンケート結果を得た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に学生実態調査を行う。</li> <li>・総学生会、総女学生会、サークル連合会、等学生の自治機構を通じた意見収集</li> <li>・ホームページに掲示板を設置し、いつでも学生が書き込めるようになっている。 数年前まで無記名で投稿可能だったが、誹謗中傷が書き込まれるなど問題が多かったため、今年度から記名式になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的に学生署が対応をする。</li> <li>・大学のホームページにカテゴリーごとの掲示板(記名式)を設けており、学生は、問題の大きさに関わらず、自由に意見を書き込むことができる。 意見は数時間ごとにチェックされ、関係部署が対応する体制が整っている。 各部署で対応できないような大きい問題は学生署が対応する。</li> </ul>

### 【分析と課題】

両大学とも、学生からの意見袖手の手段の1つとして、ホームページの掲示板を有効に利用している。

学生にとっては大学への要望を容易に伝えることができ、職員にとっては迅速な対応をとることができる有益な手段であると考える。

記名制を取ることで、学生も責任を持って意見発信を行うことができる。

Web上に掲示板を設置する場合、書き込まれる内容を常にチェックし、迅速に対応するという管理体制を整える必要がある。

# <8> 学生支援

## 2. 学生の就職支援

<1>学生の就職支援方法

<2>学生の現状

静岡大学	嶺南大学校(ヨンナム)	慶北大学校(キョンボク)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学全体としては、就職ガイダンス、各種講座（面接指導）や企業説明会等を行っている。</li> <li>・教育学部では、教員以外の企業等への就職を希望する学生への支援が課題となっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職力強化のための各種就職支援プログラム（就職キャンプなど）及び企業採用説明会を実施している。</li> <li>・近年、就職活動に重視されている海外ボランティアにも力を入れている。（以前は英語力が最も重視されていたが、人柄を見る企業が増えてきた。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職情報提供のために「ジョブプラザ」を設置。政府機関による大学教育プログラム支援として、63億～66億Wonの補助金が出ており（国内1位）、学内設備の改修などのほか、学生の奨学金プログラムの改善に使われる。</li> <li>・その他、地域企業と協力したインターンシッププログラム、大企業に進んだ卒業生をメンター（=チューター）とする制度、新入生向けの「キャリアプロジェクト」、就職キャンプなどで就職支援を行っている。</li> <li>・最近是不景気で、大企業や公務員を好む傾向がある。</li> </ul>

### 【分析と課題】

両大学とも、就職支援のための施設が整っている。

施設の中には、資料はもちろんのこと、様々なプログラムが用意されており、学生個々の希望に応じたものを選択することができる。

就職のために必要なことは大学が先回りして用意し、学生も積極的にそれを活用するという形ができると良い。

# <8> 学生支援

## 3. 学生の国際交流支援

<1>留学生支援

<2>海外ボランティアなど

静岡大学	嶺南大学校(ヨンナム)	慶北大学校(キョンボク)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学間交流協定に基づく短期留学、夏季短期留学などで学生を海外に派遣している。</li> <li>・ 英語版ホームページの未整備、外国語で対応ができるスタッフが少ないなどの問題がある。結果として、入学前に十分な情報提供ができていないのが現状である。</li> <li>・ 留学生支援ボランティアのグループが組織されており、留学生の支援を行っている。</li> <li>・ 留学生支援について、チューター、指導教員へのガイダンス等の必要性を感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際交流として、年間1000名以上、学生の受入及び派遣を行っている。</li> <li>・ 「外国語教育院」において、各国語及び韓国語の学習ができる体制が整っている。</li> <li>・ 就職においても重視される、海外ボランティアに力を入れ、政府から優秀なボランティアプログラムとして表彰を受けた。</li> <li>ユネスコと共同で、教育・環境・AIDSなどの問題に取り組む約15日間のボランティアで、ヨーロッパ・南アメリカなどに派遣される。</li> <li>250名／年に航空費の補助（半額）をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入学管理部が各学部の総括をしており、セメスターごとにオリエンテーションを行うが、各学部窓口で対応できない場合の対応窓口ともなっている。それでも対応しきれない部分は、バディ（チューター）の存在でフォローされる。</li> <li>・ 「語学堂」では、各国語及び韓国語を学習できる体制が整っている。</li> <li>・ 海外ボランティアは学生所が担当。</li> <li>応募制で、長期休暇中、ベトナム、ラオスなどを中心に2週間から1か月派遣される。教員も同行できる。</li> <li>・ その他、「グローバルチャレンジャー」、海外インターンなど新しい取り組みも行っている。</li> </ul>

### 【分析と課題】

両大学とも、語学習得のための施設、海外ボランティアプログラムが整っている。

国際交流関係部署の職員以外は外国語で対応できる職員があまりいないという現状は静岡大学と同じであるが、嶺南大学校では、「外国語教育院」を職員が活用できたり、海外で長期間の研修を計画していたり、職員研修にも力を入れ始めているようである。

## 4. 就職支援等



↑慶北大:女生徒専用の就職支援室



↑慶北大:国際交流チームの座席表



←慶北大 国際交流チーム



↑慶北大:ジョブプラザ入り口



↑慶北大:ジョブスタイルームの入り口



↑慶北大:ジョブスタイルーム

### 【分析と課題】

慶北大学の写真付き座席表は国際交流チームに限ってではなく、全ての部署の入り口には同じ写真付きの座席表が掲げられていた。ジョブスタイルーム(就職情報資料室)はサンドイッチプログラム(インターシップ類)の学生が受付事務を行っている。

# <8> 学生生活

## 5. 図書館等



↑ 嶺南大: 師範大学自習スペース

→ 嶺南大 図書館携帯電話スペース



← 嶺南大 チンミアートセンターの中庭



↑ 慶北大: 自習スペース



↑ 嶺南大: 図書館書籍索システム



↑ 嶺南大: 図書館DVD視聴コーナー

### 【分析と課題】

両大学とも試験期間には、閲覧室・自習スペース共の利用率は非常に高い。また試験期間には自習スペースも24時間開放される。女生徒用仮眠室もあった。

# <8> 学生生活

## 6. 留学生ルーム・学生自治会



←慶北大 留学生センターの一部  
にライティングセンターが設けられ  
ている。

→慶北大 学生自治会の代表者を決める  
選挙の公告



↑慶北大:学生自治会の部屋



↑慶北大:留学生ルームのオーディオセット、団欒ための設備も整っている。



↑慶北大:留学生ルームの各種掲示板、各種イベントや  
Buddy(日本のTutor)に関するものがある



↑慶北大:留学生ルームのPC類、ここでも学生用端末が置  
かれており、各所で学生の利便性が考慮されている。

### 【分析と課題】

両大学とも留学生ルームには1名の受付者(学生)が待機し、各種サポートを行っていた。  
両大学とも学生自治会の地位の高さ、活動の活発さを感じた。

## 7. 学生寮・食堂

慶北大: 学生寮→



↑ 慶北大: 学生寮食堂の静脈認証式食券機

↑ 嶺南大: 学生寮



↑ 嶺南大: 学生食堂



↑ 慶北大: 学生寮ランドリールーム



↑ 慶北大: 学生寮食堂

### 【分析と課題】

慶北大学の学生寮は、上層が女子で下層が男子と分けられており、エレベータも男子用と女子用が分けられていた。寮室への入室は静脈認証にて行っており、学寮食堂の食券も静脈認証となっていた。

# <8> 学生生活

## 8.e-ラーニングセンター・メディアセンター

嶺南大:e-ラーニングセンターの撮影室(個室)→



↑ 嶺南大:メディアセンターのメモリーボックス



↑ 嶺南大:e-ラーニングセンターのスタジオ



↓ 嶺南大:e-ラーニングセンターの撮影室



↑ 嶺南大:メディアセンターのメモリーボックスにて作成したカード



### 【分析と課題】

嶺南大学では、e-ラーニングによる講座が現在で200以上ある。昨年度は15講座追加した。専属職員は2名で運営している。

個室の撮影室では教員だけでも講座が録画できるように撮影映像がカメラの下に設置されており、また操作方法も簡単で、実際にも教員のみで講座DVDを作成するのがほとんどである。

# <9> 交換留学生の聞き取り調査

## 1. 慶北大学にて静大生2名から聞き取り(1)

<1>質問:韓国を留学先に選んだ理由は何ですか

学生回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給付型奨学金が月80万Won支給され、金銭的な負担が少ないため。</li> <li>・日本に近く、興味があったため。</li> </ul>
------	---

### 【分析と課題】

調査した慶北大学の交換留学生は、給付型の奨学金を受けている。  
 月80万Wonの奨学金で寮費を含めた生活を十分まかなうことができる。  
 学生寮はキャンパス内にあり、移動にかかる時間も少なく朝食も支給される。  
 交換留学生の語学授業料(特別講義)は、半年間無料になっている。  
 全体を通じて、勉強に集中できる環境が整っている。  
 ※ 給付型奨学金は、競争的資金の一部で運用しているため、毎年支給されるとは限らない

<2>質問:韓国の生活で困ることはありますか

学生回答	・チューターが助けてくれるため困ることはありません。
------	----------------------------

### 【分析と課題】

慶北大学では、チューターを募集するため、国際交流に関心ある人が応募している。  
 静岡大学では、教学面重視のため、留学生の指導教員がチューターを選定・決定する。  
 その結果、以下のような意見をいただいた。

1. 静岡大学のチューターは、2・3ヶ月で連絡が取れなくなることがある。
2. 静岡大学のチューターよりもボランティア学生のほうが生活面で頼りになる。

### 【チューターの選定方法】

慶北大学 ホームページ募集 → 書類審査 → 面接 → 決定 → 実施 → 報告  
 静岡大学 留学生の指導教員が選定・決定 → 実施 → 報告

※チューター(Tutor)とは、留学生に対して生活面・教学面を補助する学生をいう。

# <9> 交換留学生の聞き取り調査

## 1. 慶北大学にて静大生2名から聞き取り(2)

<3>質問: 韓国の大学と静岡大学との間でどのような違いを感じますか

学生回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強に熱心な学生が多い。</li> <li>・24時間利用可能な自習場所など、環境が整っている。</li> <li>・留学生ラウンジが整備され、必要な情報が一度に手に入る。</li> </ul>
------	---

### 【分析と課題】

慶北大学では、学生が自由に利用できる学習場所が多いと感じた。  
また、留学生ラウンジや就職ラウンジ等学生が自由に使い集まれる場所が整備されている。  
それぞれのラウンジでは、必要な情報が一度に手に入るよう工夫されている。

<4>質問: 静岡大学に望むことはありますか

学生回答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が自由に集まれる場所を整備してほしい。</li> <li>・学生用の掲示板を整備してほしい。</li> <li>・就職に役立つ資格などの講座や情報を提供してほしい。</li> </ul>
------	---

### 【分析と課題】

自習場所・留学生ラウンジの整備やワンストップサービスの必要性を感じた。  
自由に活用できる場所・情報(掲示板)は、学生の自主性を伸ばすために可能と考える。  
就職支援においても学生との情報交換をしながら情報提供をする必要性がある。

# <10>施設整備

## 1.建設費予算確保

- <1>予算獲得方法
- <2>国費・学内予算・外部資金等の割合
- <3>計画段階の建設費積算方法
- <4>施設整備の年次計画立案状況・実施状況

静岡大学	嶺南大学校(ヨンナム)	慶北大学校(キョンボク)
<p>&lt;1&gt;建物新築や建物全体改修の予算は、基本的に国に予算要求し確保している。</p> <p>&lt;2&gt;国からの配分される予算以外にも一部は学内予算を充てることもある。</p> <p>&lt;3&gt;国で決められた単価を使用し建設費を積算している。</p> <p>&lt;4&gt;大学にて年次計画を立てているが、どの建物の建設費予算が確保できるかは国の判断次第の面もある。</p>	<p>&lt;1&gt;建物の新築も、建物全体の改善・補修予算も同じであり、収入の内訳が示す通り、あくまでも国費支援金は一部であり、基本的に学内予算により捻出ている。</p> <p>&lt;2&gt;収入の内訳が示す通り、そのほとんどを大学の予算で補う。</p> <p>&lt;3&gt;一般標準基準に従う。</p> <p>&lt;4&gt;大学の自体意思決定機構によって決定し、法人から最終承認を受ける。(新築建物の場合)</p>	<p>&lt;1&gt;建物新築の予算は、国費と学内予算の両方を確保する。</p> <p>&lt;2&gt;国費以外にも、学内予算である期成金・産学・発展基金を充てる。</p> <p>&lt;3&gt;調達長が一括で技術審査する。</p> <p>&lt;4&gt;毎年の都市計画に基づいて、国法で行われている。最近では環境改善事業を主におこなっている。</p>

### 【分析と課題】

国立の慶北大学との比較では、建物建設費に学内予算を充てるのは当方と同じである。建設費予算の確保方法や計画段階の建設費積算方法については、各種手順や各種基準も調査・比較しないと断定できないが、ほぼ同ような手順と思われた。

# <10>施設整備

## 2.建物建設手順

- <1>設計に必要な資格(建築士・建築設備士等)
- <2>契約予定額(予定価格)の作成
- <3>価格競争の方法
- <4>契約締結時の工事完成保証金(保証書)の納付

静岡大学	嶺南大学校(ヨンナム)	慶北大学校(キョンボク)
<p>&lt;1&gt;内部職員の資格(一級建築士)を持った者の指導のもとで、設計図を作成している。</p> <p>&lt;2&gt;設計図を基に国が決めた積算方法で予定価格を作成している。</p> <p>&lt;3&gt;一般競争を行っており、一定の資格(会社規模等)を持った会社同士で競争させている。</p> <p>&lt;4&gt;契約保証金として、契約相手方に契約金額の1/10の現金又は保証事業会社の証書を納めさせている。</p>	<p>&lt;1&gt;建物の新增築の場合は、外部の建築会社に設計委託を発注するとし、改・補修は、自前設計とする。</p> <p>&lt;2&gt;基本的に契約予定額を作成する。</p> <p>&lt;3&gt;一般競争をしており、一定の資格(工事の実績等)を持つ会社が入札の参加権利を持つ。</p> <p>&lt;4&gt;基本的に保証金を納付させている。</p>	<p>&lt;1&gt;内部職員の資格(建築士)を持った者の指導のもとで、設計図を作成している。</p> <p>&lt;2&gt;国が決めた積算方法で契約予定額を作成している。</p> <p>&lt;3&gt;おおよその契約予定金額をもとに、一般競争契約を行っている。</p> <p>&lt;4&gt;契約相手方に契約金額の1/10の現金又は保証事業会社の証書を納めさせている。</p>

### 【分析と課題】

両大学とも、基本的に施設職員が設計・発注・監理を行い、予定価格も作成し、一般競争にて契約を行っている。これら建物建設手順の概略は同様である事がわかった。

# <10>施設整備

## 3.建物・インフラの維持管理

- <1>予算金額
- <2>組織、管理体制(内部職員・外部委託)
- <3>インフラ整備のランニングコスト削減取り組み状況

静岡大学	嶺南大学校(ヨンナム)	慶北大学校(キョンボク)
<p>&lt;1&gt;年額で経年劣化対応に1.7億円、維持保全に1億円、修理に1億円の合計3.7億円の予算で運営している。(人件費を除く)</p> <p>&lt;2&gt;施設担当職員は13人で全て内部職員である。 職員の業務範囲は設計図・仕様書等の契約書類を作成し、完了確認検査を行うのが主で、実際の工事・修理やエレベータ点検・消防設備点検等は外部委託業者が行っている。</p> <p>&lt;3&gt;経費削減の為に照明器具・空調機器に省エネタイプを採用している。</p>	<p>&lt;1&gt;建物の新增築には約11.4億円であり、改修や補修等の維持管理には約1.52億円である。</p> <p>&lt;2&gt;施設チーム担当職員は全て内部職員であり、處長(1)・部長(1)・チーム長(5)・担当(15)の計22人となる。 外部に委託している業務は、清掃・駐車場管理・機械及び変電設備点検業務・消防設備点検業務となる。</p> <p>&lt;3&gt;関連法に基づいてエネルギー節約系を採用している。</p>	<p>&lt;1&gt;建物建設費も含み年額で、国費が約11.4億円と期成金が約11.4億円である。(人件費を除く)</p> <p>&lt;2&gt;施設担当職員は20人で全て内部職員である。 職員の業務範囲は設計図・仕様書等の契約書類を作成したり、現場監理を行うのが主である。</p> <p>&lt;3&gt;関連法に基づいてエネルギー節約系を採用している。</p>

### 【分析と課題】

当大学の維持管理費3.7億円に対し、嶺南大学の1.52億円は当大学の41.1%であり、大学の規模の違いや物価の違いを考慮してもまだ当大学の経費が高価に思えるが、これは”建物経過年数の割合”や”職員数の2割強が行政(二)職員である”ことや”この維持管理費に保全業務費が含まれない”等の要素が大きく影響した数値となっていることがあるため、客観的には比較できなかった。

両大学とも経費削減の観点よりも、主に政府の省エネ政策に沿うようために、省エネルギーを行ってた。

# <10>施設整備

## 4.構内環境



←嶺南大 チヨマサアートセンターの中庭

↓嶺南大:師範大学のエントランス



→慶北大 KNコミュニティアムの庭園



### 【分析と課題】

両大学とも構内環境整備が行きとどいており、特にキャンパスの主要通路周りとなるとゴミや落ち葉が目につくようなところはほとんどなかった。

# <10>施設整備

## 5.衛生設備概要



→慶北大 語学堂(講義室)のトイレ  
小便器  
←慶北大 語学堂(講義室)の  
トイレ洗面台



↑慶北大:国際交流センターのトイレ  
洗面台蛇口(R-TOTO)



↑慶北大:国際交流センターのトイレ小  
便器



→慶北大 語学堂(講義室)のトイレブース



↑慶北大:国際交流センターのトイレ温風乾燥機



↑慶北大:国際交流センターのトイレブース

### 【分析と課題】

トイレ等の水回りも、教職員用はもちろんのこと学生用のトイレでも、設備の経年に関係なく、大変きれいに使用されていた。

# <10>施設整備

## 6.空調設備概要

↓嶺南大:師範大学学生研究室の空調機と照明のスイッチ類



↑嶺南大:師範大学学生研究室のロスナイと照明器具



↑嶺南大:師範大学講義室の空調室内機と照明器具

↓嶺南大:空調室外機(LG)



↑嶺南大:空調室外機(SAMSUNG)



↑嶺南大:空調室外機(LG) 新しい機器だがフロンガスはR-22であった。

→慶北大 国際交流センターのエレベータ(扉にもカゴ内にも、万遍に学章が刻印されている)



### 【分析と課題】

冬には零下になる気候ではあるが、食堂等の大空間以外はほとんどが空冷ヒートポンプを採用していた。もちろん製造メーカーは、LG 又は SAMSUNG がほとんどであった。

## 1.発注者権限範囲

静岡大学	嶺南大学校(ヨンナム)	慶北大学校(キョンボク)
<p>100万円未満の物品は、教員や会計担当から発注(大半は教員発注)。</p> <p>100万円以上の物品は、全て会計担当から発注。</p>	<p>事務担当の職員が発注する(教員の発注権限無し)。</p> <p>本部各部署の場合:100万Won未満の場合は自己発注。</p> <p>100万Won以上の場合 購買チームにて購入依頼を行い、購買チームから発注。</p> <p>※100万Won=76,000円</p>	<p>配定された予算に従い、各機関から直接発注。</p> <p>1件つき1500万Won以上の購入件は全量政府電子購入システムにより購入。</p> <p>※1500万Won=1,140,00076円</p>

### 【分析と課題】

静岡大学では、教員発注があるのに対し、訪問大学では事務職員が処理している。そのため、教員の事務負担が少なく、教育・研究に専念できる環境が整っているといえる。

## 2. 伝票処理の方法

静岡大学	嶺南大学校(ヨンナム)	慶北大学校(キョンボク)
<p>教員がWEBシステムを利用して伝票情報(購入希望物品の仕様・価格・使用予算)を入力する。 教員が物品を受領したら、書類(納品書)を会計担当に提出する。 会計担当は、その後の書類作成を全て行う。 検収センターを設け、専任者が検収を行っている。</p>	<p>事務担当の職員がすべて処理する。 企画處の評価監査チームの担当者が検収を行う 該当部署+評価監査チームが検収完了後、支払い可能となる。</p>	<p>需要機関から財務課に物品購入要請 管財チームで購入妥当性検討 経理チームで購入 管財チームで検収 資金チームで支出</p>

### 【分析と課題】

訪問大学では教員に発注権限がないため、事務職員が処理を担当。検収は、第3者が行うところに共通点がある。

# <11> 調達

## 3.経費削減(アウトソーシング等)の取り組み

静岡大学	嶺南大学校(ヨンナム)	慶北大学校(キョンボク)
<p>用紙(A4,A3)、宅配料やガソリン等などは、単価契約を行っている。 業務が独立しているものや一時的に忙しくなる業務について、外部委託等による経費削減を実施。</p>	<p>コピー用紙、トイレトペーパー、暖房用灯油、等は単価契約にて行っている。</p>	<p>無人電子警備、掃除、駐車管理などはアウトソーシング。 調達課では用紙などの汎用性、多量消費物品は第3者単価契約を結び、消費者はこれらの物品を購入。</p>

### 【分析と課題】

用紙、宅配料やガソリン等の大量消費物品は、いずれの大学でも単価契約を結んでいた。  
また、警備や清掃等においても同様の傾向がみられる。

## 1. 国の検査機関(会計検査院等)による検査

検査機関はどのような機関か、検査頻度や期間、最近の検査内容の傾向

静岡大学	嶺南大学校(ヨンナム)	慶北大学校(キョンボク)
<p>国の検査機関(会計検査院)によって、1～2年程度に一度の頻度で行われる。 検査期間は通常3～5日間で、検査官は3～5人程度で行われる。 検査内容としては、旅費や物品購入の際の不正事項はもちろん含まれるが、法人化後は資産の有効活用なども検査対象として上がっている。</p>	<p>会計法人(公認会計士)のための会計監査を年1回行う。 検査機関は約4日間である。</p>	<p>国の検査機関(文部科学省)によって、3年に一度の頻度で行われる。 検査期間は、通常10日間前後で、検査官は15～20人程度で行われる。 検査内容としては、旅費等の不正事項に重点を置くことが多い。</p>

### 【分析と課題】

国の検査機関による検査を受験している慶北大学では、ほぼ同じような検査方法であった。しかし、検査内容の主な目的が旅費であるにもかかわらず、職員の出勤が確認できる出勤簿やタイムカード類は一切なかった。教職員は休暇・早退・残業等についてのみ、事前に申請する方式となっているだけであった。

これが、“合理化”との考えなのか、単なる“文化の違い”によるものなのかまでは判断しがたい。

## 目 標 = 就 職

- 教 員 : 生徒の学力向上・規律順守
- 職 員 : 学生に必要な情報等を与える・学生生活のサポート・規律順守
- 学 生 : 資質向上に努める・規律順守

「優秀な人材を世に送り出すことは、  
大学としての投資(=広報)である。」  
by嶺南大学の学生支援チーム長のことば

**【大学とは優秀な人材を世に送り出す機関である】**

※就職率(学部生): 静大89%、嶺南大53%、慶北大58%

# 本研修の在り方

## 【所感】

語学力が十分でない以上、「質問事項」や「ミーティング」を通訳を介して行うのは、情報を交換するための有用な方法であることは間違いなく、またこのように”通訳を介してのコミュニケーション”を経験し、通訳を介した場合の質問方法等を学ぶことも”国際化に対応する人材育成”と言えると感じた。

実際に訪れて”目で見て・肌で感じて”得られた情報は大変貴重であり、視野が広がったことも間違いありません。

しかし、海外に行く以上、研修先を離れれば挨拶・返事・数等は当然各自研修者が行うものであり、よりよい研修の成果を得るためにも、やはり語学力は少しでも高いに越したことはありません。

## 【提案事項】

以下の提案の中には、これまでの海外研修報告書にも何度か書かれているものもありますが、それらも含め書かせていただきます。

-語学学習を受けた職員を優先的に派遣する。ただし、研修先の公用語の語学研修を受けた者に限る。

このことにより研修先での語学力発揮はもちろん、語学学習自体のモチベーションも維持できる。

-語学学習を継続的にサポートする。

”国際化に対応する人材育成”を行っていくためには、特定の人には継続的な語学学習のサポートが必要である。

言葉は使わなくなれば忘れる。

現在の半年程度のAEONでは1つ程度のランクアップしか期待できないと考える。

-最低でも研修時期の2か月前に研修先を決める。

この期間にどれくらい余裕があるかによって、研修先大学のことを事前に勉強し、的確な質問事項を作成し、そのことによってより多くの正確な情報が得られ、よりよい研修成果を上げることにつながる。

-研修先の公用語だけでも示したうえで、研修者を募る。

研修先がほぼ限定されているのであれば、可能な限りどのような研修になるのかを事前に知らしめることにより、各職員ももっと自信を持って応募できる。また、通訳を立てるのが通例であることも知らしめればもっと応募者が増えると思われる。

-海外への研修前に国内の他大学(国・公・私立)への研修を行う。

「国際化」も重要だが、その前に、”容易に入手”でき、基盤がほぼ同様のため”容易に比較”しやすい情報も得るべきである。

以上の事項は、現在の研修制度の改善提案だが、もし規則上可能であれば「定期訪問型研修」も提案したい。

-「定期訪問型研修」とは、訪問する大学を毎年同じ大学とし、毎年同じような時期に派遣する形である。

-国際化に対応することを目的とするので、研修先は英語圏であるべきと考える。

-研修者は、事前に得られる情報が大学HP等の情報だけでなく、研修先大学の知っておくべき情報が得られる。(主要行事日程・組織体制・予算・授業料等)

-国際交流チームは、訪問先の大学の変化も感じ取れることとなり、今までの研修とは違い「変化の速さ」等に関しても情報が得られる。

-各研修者の語学力によっては、それぞれが別々に各自の専門部署に行き打合せを行い、時間を有効に使うことが出来る。

ただし、この形式は毎年研修を受け入れてくれる大学があるかが問題となるが、今回研修先の両大学では「余裕をもった研修時期の事前連絡」と「余裕をもった研修事項の事前照会」を行えば”研修を受け入れる側の大学にとっても、有益となるもの”とのご意見を頂いている。

また、これまでの海外研修報告書から読み取ることが出来る「研修先大学の献身的なサポート」からも、このような考えは今回の大学だけでなく他大学も相違は無いのではと思える。

# 研修者各個人の所感

## 【財務施設部 施設チーム 主任 上田敏史】

平成20年度に施設チーム大谷キャンパスに異動してから知ったこの海外研修制度には、早速同年度に応募しましたが採用されませんでした。また、21年度は同チーム電気係の内藤さんが応募しましたが、採用されませんでした。しかし今年度は、英語力の維持にもめっきり力が抜けていたところに採用の連絡がありました。しかも、最年長者として「筆頭研修者」となっていました。連絡を受けてからは、筆頭者として「筆頭者なのだから頑張らなければ」や「筆頭者になったからには遠慮せずに意見を出して行こう」や「先方は「Manager」「Deputy Manager」「Senior Manager」等の地位の方々で気が引けてしまうな」と、色々な心の葛藤がありました。そしてその結果と言えるのがこの報告書だと思います。皆様にとどのような形でこの報告書を仕事に生かして頂けるかわかりませんが、少しでもお役にたてばと思います。

研修中の4日間の不在期間はもちろんのこと、事前打合せ等で幾度か席を外す等、直属の主査はもちろんのこと、施設チームの皆さまにご迷惑をかけることも多々ありました。大変感謝しております。

人事労務チームや国際交流チームの皆さま方にも、研修全般で色々とお手配して頂きました。特に本研修時期には朝鮮半島の「南北の緊張状態」があり、緊急連絡用携帯電話を手配してくださるなどの心遣いをいただき感謝しております。

また、ふがいない筆頭者だったとは思いますが、そのもとで先方との連絡調整から始まり、報告書作成に至るまで、色々とお助けしてくれた久田さん・世古さんに感謝します。

## 【財務施設部 経理・契約チーム スタッフ 久田徳人】

今回の韓国大学訪問は、大変良い刺激になりました。

特に印象に残ったことは「韓国大学は、学生の自主性を重んじている」点です。そのために学生が集まれる場所や電子掲示板などの支援体制が充実しています。また、職員の語学能力は高く、あらためて英語、中国語の必要性を感じました。今回の出張で得たことを踏まえ、以下の提案をいたします。

- 提案1 学生が集まれる場所を提供すること
- 提案2 ワンストップサービスを提供すること
- 提案3 静大ホームページに学生が活用しやすい電子掲示板を運用すること
- 提案4 チューターは教員が選ぶのではなく、意欲ある学生公募から選ぶこと
- 提案5 教職員の語学制度の充実を図ること



↑慶北大:大学構内での軍事訓練の一コマ

## 【教育学部 学務係 係員 世古望美】

韓国は、人、土地、空気、その他全てが「powerful」でした。と片付けるのは、少々乱暴でしょうか。

大学に関して言えば、韓国の学生は明確な目標に向かって非常に熱心に取り組んでいることが、教職員の方々のお話や、図書館や自習室に溢れる学生の皆さんの姿から十二分に伝わりましたし、両大学の広大な構内、立派な正門や施設には、ただただ圧倒されました。

朝鮮半島の緊張状態もさることながら、事前の準備不足もあって、不安ばかりの渡韓でしたが、充実した研修期間を過ごすことができたのは、嶺南大学校、慶北大学校、両大学の皆さんが、渡航前の連絡調整から当日に至るまで、大変丁寧に対応くださったおかげです。

慶北大に留学中の静大生お2人に、留学生活や静岡大学の課題について、学生の視点からの貴重なご意見を伺えたのも非常に有意義な時間でした。業務改善へのヒントを少なからず得られましたし、自身が目指す大学職員像について見直す機会にもなりました。

我々を温かく迎えてくださった嶺南大の慎さん、慶北大の禹さんはじめ、両大学の教職員の皆様、完璧な通訳を務めてくださった慶北大生のスギョンさん、留学中の静大生のお2人。皆様に心から感謝しています。

また、快く研修に送り出してくださった係の皆様、関係各所の皆様、研修にあたっての準備や調整をくださった関係部局の皆様、ありがとうございました。

最後になりますが、海外勤務経験で培った国際感覚と堪能な英語で今回の研修を率いてくださった上田さん、様々な場面で豊富な知識を発揮してくださった久田さん、お世話になりました。